

石川 正敏(いしかわ まさとし)

准教授

専門分野／情報科学、データベースシステム

奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科を単位取得退学。博士(工学)。東京農工大学大学院工学府情報工学専攻ユビキタス&ユニバーサル情報環境専修特任助教、東京成徳大学経営学部助教を経て、平成 25 年現職。



著書：「地域研究のための現地情報収集支援システム」アジア遊学，勉誠出版 No. 113

ユビキタス・ラーニングの実現に向けて

新任ということで、今回は私が現在行っている研究の紹介をします。ご存知の方も多いと思いますが、タイトルのユビキタスとは、「同時にどこにでもある」という意味で、ITの世界ではコンピュータの存在を意識させない環境を表すユビキタス・コンピューティングが有名です。つまり、ここで目指すユビキタス・ラーニングとはいつでもどこでも学習可能な環境のことです。

多くの反復練習が必要な語彙（ごい）学習は、このユビキタス・ラーニングに適した対象といえます。少しの空き時間に場所を選ばない語彙学習を実現するために、iPodなどのモバイル機器の利用を想定し、そのためのツールを開発しました。語彙学習では、単語帳のように単に綴りと意味だけを眺めるより、発音や単語を連想させる絵や動画も同時に見たり聞いたりした方がより高い学習効果が得られることを幾つかの実験で確認しています。ただし、このような動画や音声からなる教材は学習したい単語と意味を組み合わせた数だけ必要であり、教員など一部の人々だけで用意するには限界があります。そこで、現在行っている研究では、学習者自身が、絵あるいは5秒程度の動画を用意すれば、発音や字幕をつけた教材を簡単に作ることでできるツールを開発しました。さらの学習者同士で教材の交換や教材の評価を行うことを支援するためのウェブサイトも構築しています。今後は、このような教材による語彙学習の効果を高めるために、学習者による教材評価や教員からのアドバイスを有効に活用するための方法について検討します。

ユビキタス・ラーニングは、いつでもどこでもというだけではなく、ウェブサイトによる教材共有のように、だれとでもつながって教え合うことのできる学習環境であると考えられます。このような学習環境は、インターネットや無線通信網が整備され多様なコミュニケーションが可能になったからこそ実現できるものです。今後は、語彙学習以外の分野における学習でも利用され、教え合うことによる新しい知識の共有や発見、さらには学習動機の向上と継続につながれば嬉しく思います。

バングラデシュの旅行記

2010年10月、機会にめぐまれバングラデシュでの野外調査に同行しました。今回は、研究等の堅い話は抜きにして、バングラデシュの様子などを書いてみようと思います。

バングラデシュと聞いても国名だけしか知らないという人も多いと思いますので、まずは簡単にご説明します。バングラデシュは、インドの東側にあり、日本の4割程度の面積に約1億6千万人の人々が住み、その半数近くが1日1ドル以下で生活している最貧国の一つです。ただ、近年、これまで世界の工場と言われてきた中国の人件費の上昇をにらんで、バングラデシュへ工場を移そうとしている企業が増えていることから、今後、経済の様相は大きく変わることが予想されます。



さて、今回は、バングラデシュの交通の様子をご紹介します。私が同行した研究グループの移動はすべて車でしたが、町中では、車（バス・タクシー）以外に、リキシャと呼ばれる人力車、3輪タクシーなどの移動手段があります。もちろん大半の人々は、徒歩で移動しています。バイクもちろほら見かけますが、普通の自転車は見かけませんでした。農村部では馬車等も利用されていると思いますが、今回は目にすることが、ありませんでした。また、線路があったので列車も運行していると思うのですが、ほと

んど運行されていないためか、線路はあたかも歩道と化していました。



さらに都市部では、信号らしい信号がなく、車も人も移動したいように移動しているために渋滞と言うよりも、混乱と表した方がよいような状態の場所が多数ありました。一方、農村部では、渋滞というものはありませんが、その代わり道路の混雑状態にかかわらず、どの車もめいっばい速度を上げて走っていました。さすがに、ドライバーもなれているようで、私たちもそれなりに信頼していたのですが、対面通行の道路では対向車がいるのに、追い越しのために反対車線に出るドライバーには度肝を抜かれました。

このような状況は、昼間であればまだしも、街灯がほとんどない夜間の道路でも変わらないため、さらに危険な状況になります。よくこれで事故が起きないものだと思っていたのですが、私たちがバングラデシュ滞在中にも夜間にバスが橋から川に転落して死者がでるなどの大事故が起きていたようです。

最貧国の一つに挙げられるバングラデシュではありますが、このような交通状況になるほど、どこ見ても、人、人、人と非常に活気にあふれていました。ただ、次に行く機会があったときには、この様な交通状況だけは、少しでも改善されていれらうれしいと思います。